

第14回 全国市議会議長会 研究フォーラム in 高知

令和元年
10月30日(水)→31日(木)



大会テーマ
「議会活性化のための
船中八策」

「議会改革せよ」

全国市議会議長会は10月30、31両日、高知市の高知ちばさんセンターで第14回研究フォーラムを開催した。「議会活性化のための『船中八策』」をテーマに2日間にわたってパネルディスカッションや課題討議を展開、議会の取り組みむべき課題などをめぐって活発な議論を交わした。



野尻哲雄会長（大分市）

フォーラムには全国の約2100人の市議会議員が出席。初日30日は冒頭、野尻哲雄会長（大分市）が、相次ぐ自然災害の被災者へのお見舞いの言葉を述べた後、「議会への多様な人材の参画や



「研究フォーラム in 高知」の開会—高知市議会議員が法被姿でお出迎え

議会の権能強化を図るとともに議会改革を深化させていくことが重要な課題だ」とあいさつ。開催地を代表して田鍋剛高知市議会議長、来賓の岡崎誠也高知市長が地元開催に歓迎の意を表明した。

この後に開かれた田鍋議長を交えたパネルディスカッションで国研修機



田鍋剛議長（高知市）

え鎌倉市議会議員、久坂くに

船中八策
坂本龍馬が1867年（慶応3年）にまとめた新しい国家の構想。大政奉還などの8つの策から成り、京都に向かう土佐藩船、夕顔丸の中で龍馬が後藤象二郎に示した。



岡崎誠也高知市長

翌31日には滝沢一成上越市議会議員、久坂くに

わたる討議の総括で、コーナーの坪井ゆづる朝日新聞論説委員が現在の地方議会が取り組む課題として「監視機能の強化」「次世代を見据えた議論」「テーマを踏まえた議論」「多様性の確保」「地方自治法第96条1、2項の活用」「労働法制の見直し」「情報公開の徹底」「議員間の徹底議論」の八策を取りまとめた。

来年の第15回フォーラムは10月28、29の両日、長野市で開く。

中島教授基調講演

- 初日の30日、中島岳志東工大院教授が「現代政治のマトリクス—リベラル保守という可能性」との演題で基調講演した。
- 中島教授は、自民党の過去50年の変遷について分析する中で、現在の安倍政権の政治的位置づけを解説し、これに対する野党の取るべき戦略などについて語った（講演要旨は6面）
- ① 一条例を設け又は改廃すること。
 - ② 予算を定めること
 - ③ 決算を認定すること（以下略）。
 - ④ 前項に定めるものを除くほか、普通地方公共団体は、条例で普通地方公共団体に関する事件（法定受託事務関連は略）につき議会の議決すべきものを定めることができる。

地方自治法

第九十六条 普通地方公共団体の議会は、次に掲げる事件を議決しなければならない。



坪井ゆうづる氏

坪井氏 議会をより良くするヒントを2日間で考えたい。まず、今の地方議会に対する認識は。

課題討議
第1日目 10月30日(水) **「議会活性化のための船中八策」**

コーディネーター 坪井 ゆづる氏
パネリスト 高部 正男氏
横田 響子氏
古川 康造氏
田鍋 剛氏

パネルディスカッション
朝日新聞論説委員
市町村職員中央研修所学長
株式会社コラボポテト代表取締役
／お茶の水女子大学客員准教授
高松丸亀町商店街振興組合理事長
高知市議会議員

2-3年、EBPMが大

い。しかし高松市議会に

政策立案や提言をする

高部氏 投票率低下へ

運営面では、議会は政

一方で、議会改革の取

古川氏 全国の地方都

田鍋氏 高知市議会の

坪井氏 どうすれば市

併せて選挙区制度につ

変はやっている。自分た

はわれわれの商店街の再

議会、行政の監視、評価

の統一を考えてみたらど

うか。選挙を一緒に実施



横田響子氏



田鍋剛氏

策立案機能が強調されすぎだと感じている。議会

は行政監視の機能が基本ではないか。行政の複雑化に伴う専門家重視の流れで、例えば監査では、

外部監査を入れるなどの議論もあるが、議選監査委員の活動が重要だと思う。また決算審査の中で

は決算の認否だけでなくよく審査して、何かをまとめて執行機関側に提案

するというのがやってみたいかどうか。議会はチェック機能をしっかり果たすのが大事だ。



高部正男氏

横田氏 多様な人材でガチンコ会議もしてもらいたい。

20年後の絵姿を見ながらどうしていきたいか、地域の人と話していくとアイデアが増えてくると

思う。住民との会話を作っていくことも議員の役割だ。

古川氏 個人的には議会改革は果たして必要なのかと思っている。

議員のなり手がなせ少ないかだが、議員になって給料を公費でもらうと

一気に社会から監視されるようになる。一般市民からすれば「ここまで言

われるのか。ならばやってられないよね」という感想を持つようになるのだと思う。

議員が地域の代表である以上、市民によるリスク

ペクトが必要だし、しかるべき報酬なども必要だ

と思う。選挙制度の話があったが、高松市議会の場合は、

地域密着はきちんとして話していると思う。市民を世話してくれる議員が

選挙を通り、そうして議会が構成されている。こうした中でもあえて議会の改革が必要なだろう

か。

丸亀商店街を視察する市議会が多い。昨日まで

358の市議会が視察にきている。以前とはガラッ

と変わり、今は各議員とも相当勉強している。こう

した姿が市民にうまく広報されていない、ここにリスクがない。これこそが問題なのだ



古川康造氏

高部氏 議会改革が必要かだが、何が大切

で何を指すのかが問われる。何も無いのに「よ

そが騒いでいるから」という理由で動くことはない。大事なことは、長

いなくとも自治制度は作れるが、議会がない自治体はないということだ。市民に対し、どのような

広報活動をしているか。

田鍋氏 多くの市もそうだと思うが、「市議会

だより」を年4回出している。また議会改革について何が

できるか今、検討しており、その中で議会広報も議論対象だ。中

核市議長会で広報紙のコンクールもあり、今年

は呉市が受賞した。これに追い付き追い越せだ。

坪井氏 女性議員を増やすにはどうしたらよいか。

横田氏 議員の皆さんは後継候補としてワンリ

スト増やしてほしい。そうすればリストの中に女性

が入りやすくなる。また、(立候補要請に)女性

はすぐ受けない傾向があるのだから、5回は女性を口説いてほしい。

投票制を入れることもありえる。戦後初めての衆

院選挙(昭和21年)で連記投票制を採用し、2票

目を女性に入れた人が多かった。この投票制を入

れると女性の議員数が増えることが容易に推測される。

会場質問 広報は十分やっているつもりだが、それでも関心を持ってもらえない。

古川氏 市民の目からすれば議員からの「近

う寄れ」というのが相変わらず強いのかもしれない。議員から「何か困

たことはありませんか」というふうに寄っていった方がよい。

高部氏 そもそも地方自治、国政に関心を持ってもらえない状況がある。

また、議会広報で言えば議員同士がライブルであるという(編集上の)

難しさがある。議員同士が同じように掲載されているものを市民が喜んで

読むかということだろう。その辺を工夫をしなければならぬ。広報誌は読

んでね」と言える関係をより多く作っていかねば

ならない。

坪井氏 市民から議会活動が関心を持たれないのは話題がつまらない

のではないか。住民が関心を持ちそうな話についてみんなが集まりやすい

ところで議会報告会をやるということに尽きると

思う。例えば過疎地域だと集落などの問題がある

だろうし、都心であれば増加する外国人労働者や

子ども食堂の問題もある。議会としていくつも話し

合う問題があるはずだ。

※EBPM Evidence Based Policy Makingの頭文字の略。証拠やデータに基づく政策立案のこと。(文責 旬報担当)

課題討議

第2日目
10月31日(木)

事例報告 「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター
事例報告者

坪井 ゆづる氏
滝沢 一成氏
久坂 くにえ氏
小林 雄二氏

朝日新聞論説委員
上越市議会議員
鎌倉市議会議員長
周南市議会議員長

坪井氏 初日の議論を踏まえて船中八策を打ち出していききたい。まず、皆さんが取り組んでいる議会改革の報告を。
滝沢氏 「市議を指ししやすい環境整備検討会」を議長との諮問組織として平成29年3月に設置し、市民との意見交換会

や議員アンケートを実施するなどして5つの大項目、19の小項目からなる答申をまとめ、平成30年3月に議長へ提出した。その後議会改革推進会議を開いて住民との意見交換会の見直しを進めたり、議会モニター制度を実施したりしている。また、女性フォーラムを開き、中学生の模擬議会も実施している。「議会改革の推進こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力」と信じて行ってきた。



滝沢一成氏

久坂氏 鎌倉市議会で、初めて現職で出産した議員となった。議会では出産は会議規則の欠席事由になっておらず、先輩議員の発議で出産が会議に欠席できる事由に改正さ

れた。しかし産前産後休暇の明記はない。行政側の女性部長からは「女性職員のことも考えてもっとしっかりした産前産後休暇を取ってほしい」と言われたが、定めがないなかでどうやって取得するのか、その期間はどうしたらよいかなど悩みを持っていた。

産前産後休暇と看護休暇は一般的に法定化されている。しかし、地方議員は法的位置づけが明確化されていない。だからこそ全国市議会議長会は長年、「議員の位置づけを明確化すること」を国に要望している。法律で守られていない地方議員の在り方が時代とのミスマッチ、制度疲労を起しているのは明らかだ。

にもなる。そうすることで議会の価値を高めることができるはずだ。
小林氏 周南市議会は平成16年5月の住民投票に伴う議会解散を経て定数34で新たな門出を切った。議会解散という経験と教訓がその後の議会改革の原動力になっている。同年7月に議会改革特別委員会を設置し、「開かれた議会を目指して」「議員の資質向上を目指して」をテーマに協議した。並行して政治倫理条例制定特別委員会を設置し、倫理条例の制定にこぎつけた。その後の改正で市長、議長、副議長が対象だった資産公開は議員全員に広がっている。

この間、議会基本条例について議論を進めた。議員の中からは「多くの市議会が基本条例で定めている改革は既に実施している」「形より実だ」「基本条例を定めるとそれに縛られ、機動性と柔軟性が失われるのではな

いか」などの意見が出され、その結果、「議会改革では周南スタイルを貫いて実を上げていこう」となった。
坪井氏 行政監視機能の特長・事例紹介を。
滝沢氏 上越市議会の委員会資料は非常に詳細だ。状態目標、数値目標、取り組み内容、成果などを細かく書かせている。ありとあらゆる情報を書けるだけ書け、公開しなさいという具合で10年以上、やってきている。これは行政との信頼関係の中で行っていることだ。行政監視の手段としてはとても良いのではないかとと思う。行政監視は先鋭的にやってきたという自信はある。



久坂くにえ氏

久坂氏 ごみ処理行政で予算案を減額修正したことが何度もある。個別収集の経費はあまりに多額ではないかと指摘して、また、生ごみ処理施設を設計する計画が出てきた際には、議会では情報を聞いていないし、周辺住民への周知状況も疑問だとなって修正した。条例案の成熟度が未熟、もしくは市民への周知が不足しているのではないかとシビアに否決したこともある。本庁舎移転整備に関わり、移転後の跡地利用とか公共施設の在り方などで閉会中継統審査として所管事務調査も実施している。

小林氏 企画総務、教育福祉、環境建設各常任委員会が所管事務調査を積極的にやっている。会期中、閉会中に関わらず重要案件(特定事件)について積極的に調査し、執行機関を監視し、効率的・効果的な事務執行を

促している。

3委員会が連携して調査したものに指定管理者制度がある。500超ある「公の施設」のうち指定管理を実施している73施設を調査し、その結果を踏まえ、今年6月定例会で議員提案による同制度に関する決議を可決した。指定管理者制度に関する議会の個別具体的な問題提起が生かされているかどうか、今後も監視していく。

周南市議会はまた平成22年に100条委員会を設置。そのほか予算・決算委員会を踏まえ、事務事業評価も行っている。



小林雄二氏

坪井氏 住民の声をどのように集めているか。

滝沢氏 議会報告会・意見交換会を全28の地域

自治区で4年間のうちにを行うこととしている。意見を聞くだけでなく、我々で課題調整会議も開き、

市民の声に「〇〇のように答える」と決め、その内容をすべて公開している。

新しい取り組みとしては各層との意見交換会を実施している。農協、農業者、ケアマネジャーなどのところに行つてテーマを決めての意見交換会を始めている。テーマを絞っているので深い議論ができる。

議会モニターにも取り組んでいる。500人の市民にアンケートに答えてもらい、30人のモニターからは議会を傍聴した感想を頂いている。

久坂氏 議会基本条例を制定しているの、条例に基づき、議会報告会並びに意見聴取会を開いている。意見聴取会は各テーブルに7〜8人、その中に議員が1〜2人入

って実施している。今年「共生社会の在り方」をテーマに行った。悩みは議会報告会の参加者が固定化されていることだ。このため次年度については団体の話を聞くことや、高校生を対象に実施するなどの新たな策について広報委員会で検討している。

小林氏 平成17年8月から委員会懇談会(ミニコン)を始めている。議会運営委員会、各常任委員会、各特別委員会単位で開催、市民と懇談することその声を議会活動に生かしている。平成18年11月には、健康福祉委員会が小児医療の充実をテーマに、徳山医師会、徳山歯科医師会とミニコンを開催、このことがきっかけで「周南こども救急センター」のオープンにつながった。このようにミニコンは住民から直接声を聴く重要なツールとなっている。

坪井氏 政治を志す人への言葉は。また、上越市議会には今、女性議員が少ない。

久坂氏 男性でも女性でも問わないが、議員はやりがいのある仕事だから是非、チャレンジしてほしい。それを伝えていきたい。片山さつき女性活躍担当(当時)が以前話されていたが、「女性に『政治家になるのはどう?』と問い掛けても一度だけでは『私はいいいです』となってしまう」ということだった。やはり女性にはもう一押し、二押ししていただければありがたいなと思う。

滝沢氏 女性議員がいなくなつて価値観が一面的になつてくる恐れがある。ただ、若い女性にとつて今の社会は生きづらいということが根源的な問題ではないか。結婚によって大体キャリアが断絶してしまう。子育てを終

えたら非正規雇用しかない。そういう中で女性に議員をやってくれといつてもなかなか難しい。それをまず変えていかなければならない。

坪井氏 議案に対する議員個人の賛否は公開しているか。



坪井ゆうづる氏

滝沢氏 公開している。議会報、ホームページですべて出している。

上越市議会はありとあらゆる情報公開をしている。委員会、その他検討会、あらゆる会は原則というよりもほぼ100%公開している。

小林氏 個人賛否は公開していない。賛否は議員が議論の中で行い、本会議の議事録はすべて公開している。それを見てもうえれば議員がどうい

う討論をしたのか分かる。本会議で丁々発止、議論するのが大前提だと思つている。

坪井氏 議事録を読まないまでも議員賛否が分かる仕組みは検討してもいいのではないかと思う。これまでの討議で「どうすればより良い議会にできるか」の7策が揃つた。①監視機能の強化②次世代を見据えた議論③データを踏まえた議論④多様性の確保⑤地方自治法96条1、2項の活用⑥労働法制の見直しの情報公開の徹底⑦の7つだ。

会場質問 8策の一つに合意形成を。議員が多くなれば厳しくなつてくるものだ。

坪井氏 合意形成のためには議員討議を増やし、徹底議論するしかないと思うことだと思つた。これを加えて8策が揃つた。議会改革の一助になればと思う。

(文責 旬報担当)

現代政治のマトリクス

「リベラル保守という可能性」

中島岳志東京工業大院教授

基調講演

政治は内政面で2つの大きな仕事をしている。一つはお金の出し入れをする仕事。もう一つは価値をめぐる仕事だ。

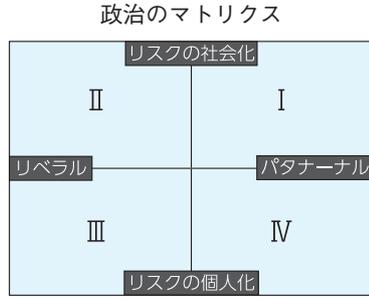
ここで縦軸にお金、横軸に価値を置く(図参照)。

「リスクの個人化」とは「個人で対応してください」という考えで、自己責任論が強くなる。政治で言うと「小さな政府」に偏っていく。

一方、「リスクの社会化」とは「みんなで補いましょう」という考え。

「大きな政府」型だ。もう一つの価値の問題はリベラルとパターナル。リベラルとは「あなたの思想、考え方は認めません。その代わり私が信じる思想には介入しないでくれ」という考え方で、これは「自由」という概念として発展していく。

このリベラルの反対概念は「保守」とよく言われるがこれは間違いだ。反対語は英語で言うと「パターナル」、日本語では「父権的」と訳す。



強い者が価値の在り方について介入していくことを「パターナルリズム」という。

政治家、政党を分析するにはこうして、お金と価値をめぐって位置づけしていくべきだと考える。さて、今の自民党を考えると安倍内閣はパターナルな傾向が強い。図で



中島岳志氏

言えばIVに入ると思う。LGBT(性的少数者)、選択的夫婦別姓、歴史認識の問題などでパターナルなタイプだ。そういう自由を積極的に容認するという方向には舵を切っていない。

もう一つの政府の規模では、幼稚園・保育園の無償化などから「多くのお金を出して『リスクの社会化』をしている」と指摘する声上がる。こういう場合、政治学者は①租税負担率②国内総生産(GDP)に占める国家歳出の割合③国民1000人当たりの公務員数

の3指標を使って判断する。そうやって客観的に見れば、日本は世界でも指折りの「小さな政府」になっている。

では自民党は昔からそうだったのかと言えば「違う」というのが私の見方だ。

40-50年前の自民党は真ん中より上のゾーンだった。田中角栄はI、大平正芳はIIで勝負してきた。この2つのラインのことを「保守本流」と呼んできた。

その後、中曽根、橋本小渕、森内閣などの流れを経て小泉内閣になって自民党は一気に「リスクの個人化」へと動いた。規制緩和、構造改革、マーケット至上主義。さらに小泉内閣から安倍内閣への変化で、安倍首相は価値の問題へと踏み込んだ。

これが50年の自民党の大きな流れだ。こうしてI→II→III→IVの順番で自民党は大きな変化を遂げてきている。

これに対して野党をどう考えるべきか。野党は揺れ動いている。

2年前に希望の党が立ち上がり、あっという間に勢力を失った。

希望の党の中核にいたのは旧民主党の人達。「皆で支え合おう」という「リスクの社会化」路線がその主張だった。しかし、その勢力が安倍に近いゾーンにいる小池百合子と組んだ。

図で言うと、「斜め」と組むと何をやりたい政党なのか訳が分からなくなる。こうした中で出てきたのが「枝野幸男立て」という声だった。

私はこの時、ラディカルデモクラシーが起きたとみている。「投票にいくだけでなく別の政治への関わり方がある」という考え方がこの論の支柱。

「投票に行っても何も変わらない」と考えていた主権者が枝野を支持したのだと思う。立憲民主党は国民の大きな支持を得たが、それも一年少々しか続かず、

間隙を縫って出てきたのが山本太郎だ。同じラディカルデモクラシーだが、枝野が「熟議」デモクラシーなのに対し、山本は対抗軸を作り、真っ向から挑む姿を見せる「闘技」デモクラシー派。山本はそのパイオニアのような存在だ。

今後、注目されるのは熟議、闘技両デモクラシーがどういう動きになっていくかだ。この2つがバランスを取りながら昔の自民党が担っていたゾーンを共闘して作れるかが、もう一つの野党の選択肢になるだろう。

過去の「革新」という考え方は支持が集まらない。むしろ、自民党がかつて担っていたような「リベラルな保守」こそが、もう一つの選択肢として立ち上げなければならぬ重要な概念であるというのが私の主張だ。(敬称略、文責旬報担当)



研究フォーラム in 高知

高知市議 鳴子鳴らし

法被姿でお出迎え

着ぐるみの「りょうまくん」も

研究フォーラムは2日間とも快晴。開催市の高知は龍馬、よさこい鳴子踊りでおもてなしをした。会場入り口で龍馬の法被姿の市議がよさこいで使う鳴子を鳴らしながら参加者をお出迎え。最年少の甲木良作議員



清水おさむ議員 (高知市)

「世界に広まったよさこい」が配られた。

龍馬姿・法被姿 高知市をPR

開催市PRでは、昨年の宇都宮市でのフォーラムに続き、清水おさむ議員が龍馬に扮して登壇。



寺内憲資副議長 (高知市)

「世界に広まったよさこい」が配られた。

開かれた意見交換会は本副会長を務めた高木妙高知市議(前議長)が司



初日の夕刻、別会場で行われた意見交換会は本副会長を務めた高木妙高知市議(前議長)が司



清水宣郎副会長 (松山市)

フォーラム閉会式 研究フォーラム閉会式

では清水宣郎副会長(松山市)が「高知市議会の多大なるご尽力で、盛大に成功裡に終わることができた」とあいさつ。「来年は長野市で再会を」と呼び掛けた。

次期開催地の長野市は、台風19号による千曲川の堤防決壊で甚大な浸水被害が出た。



小泉栄正議長 (長野市)

長野市で次期開催 水害復旧・復興へ

今回のフォーラムで小泉栄正議長をはじめ、大勢の議員たちが次期開催地をPRする予定だったが、災害対応で欠席。小泉議長がビデオメッセージで被災地支援に謝意を示した上で、「復旧・復興に努め、皆様のお越しをお待ちしています」と話した。

ライトアップ 高知城

児童虐待防止の「オレンジリボンキャンペーン」でオレンジ色にライトアップされた高知城天守。手前は大手門。10月30日夕撮影





【プロフィール】

田鍋 剛 (たなべ つよし) 氏
高知市入庁。市職員労働組合の執行委員長を4年務めた。職場復帰後、先輩・同僚から市議選出馬を要請され、45歳で市を退職、連続4期当選。高校の部活は卓球部で、インターハイや全日本卓球選手権に県代表で出場した。趣味はラージボール卓球。信条は言行一致。龍馬のほか、郷土の英雄で好きな人物はライオン宰相、濱口雄幸。

議員間討議徹底
チーム議会へ びちくる (もがく)

田鍋高知市議長インタビュー

研究フォーラムのパネルディスカッションで、開催市の田鍋剛高知市議会議長(58)は議会活性化の取り組みや目指す議会像を話した。キーワード

ドは「徹底した議員間討議」、「それに「びちくる」。土佐弁で「もがく」という意味。フォーラム終了後のインタビューで「チーム議会へびちくる」と熱く語った。

平成26年4月から実施している議会独自の行政評価では、市の施策が十分か、足りないもの、不要なものがないかチェックする。4常任委員会ごとに毎年3前後の施策を取り上げ、執行部にヒアリングをして議員間討議を繰り返す。一致できたものを次年度予算反映へ、議長が市長に提出する。

「お互い説得、協力して議員間討議が充実強化された」と手ごたえを感じている。

議会権限活用で 首長と対峙

フォーラムで訴えた地方自治法の議会権限の活用は、「二元代表制のもと、うまく使いこなせば、首長と十分対峙できる」と具体的な取り組みを挙げた。

議員の議案提案が少ないとの指摘もあるが、26年9月議会に高知市公共調達条例を議員提案、翌年10月施行された。労働

報酬下限額以上の賃金支払いを義務付けるなどの内容。「談合防止で競争入札をしっかりとやると、価格競争が激しくなる。しかし、それは労働条件悪化や品質低下につながる。会派代表のワーキンググループ(WG)で徹底討議。会派内、WG協議を繰り返す、合意できる内容で提案した」

「できる規定」の第96条2項を使ったのが、定期借地権設定について議会の議決が必要になるように昨年3月定例会で行った議員提案の条例改正。執行部が中心市街地活性化策で、小学校跡地の市有地に定期借地権を設定、民間事業者に土地を貸し、事業者が施設を設計・建設、運営・維持管理する構想を打ち出したのが発端。プロポーザル方式の過程が非公開で、議会への説明が不十分なほか、広場や公園という市民の要望もあり、賛否両論が

渦巻く大問題となった。市には歳入として賃貸料が入るが、歳出が計上されず、予算上は議会のチェックを受けない。「市民の意見が二分する問題を議会のチェック、監視なしに事業が進むのは二元代表制の議会として受け入れることはできない」と議員提案したもので、「議会がこの問題の責任を執行部と同じように取る」という意思を示した」と話す。

フォーラムで伝えたかったのは、「議員提案を活用する。住民にとって最良の意思決定をする」とが議会の役割であり、議会の中で協力し合ってやる必要がある」ということ。「思想信条が違い、地域や職域を背負って会派間の批判合戦になり、議会はよく対立する。そういう中で首長の追認機能に頼らず、会派間の分断を受けずに議員間、会派間討議を尽くすことで

調整、集約しないといけない。大事な議案、政策課題は議会が一致結束してあたるべきだ。そういう作業にびちくりたい。それがチーム議会。近づければ」と笑顔を見せた。



高知市は敷地内で庁舎を建て替え中。年内に完成の予定で、来年3月定例会は新庁舎で開催される。左の写真は建設中の新庁舎で、正面手前3階までが議会。3階屋上の突き出た屋根は本会議場の天井部分(写真↑高知市提供)。

